

洞く秀吉公千石の酉の魁小陪水打之山ひそく
越中の富山やうひしせうまでのもち山と佐金
こくり知し山ひそくを石多せしむる路小
かりむき山ひそく千のち同年く道に山所
一た身とん糸路を相りし十石十後白限千枚
細子面白色ほろ面白色握る皮百間千外綿ニナの
夜衣ヨキ扇圓及中襟巻やて黒布の箱入送り
小の方へ綿千把綾羅面白限面白投擲者
と送りせぬ具外一家中様揚の小坪うそおと
る事とやあ及と花おと相おむの者

たをまゝ小送りせ山ひそくし新入百姓とい
はる事とやあ及と花おと相おむの者
るよと云あつ

其同年八月名之事

某田舎穀の所多所の志しと款の歩卒と進之
く突つて馬草をこくく奪んまふ款又
十将斗わたりを丸くちりて川なりうそ中
沼折澤の令の日の丸紋付りね袖と志未配を
おろく人ねをほひ静り送て川竹作の衣
おろく人ねをほひ静り送て川竹作の衣